



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

四旬節第 4 主日 B 年 (2024 年 3 月 10 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：歴代誌下 36 章 14 — 16、19 — 23 節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 2 章 4 — 10 節

福音朗読：ヨハネによる福音書 3 章 14 — 21 節

愛してくださる神のころ

今日の第一朗読で『歴代誌』が読まれます。この書にはイスラエルの民のバビロン捕囚から解放までの歴史が描かれています。ですので『歴代誌』を記した作者たちは、捕囚からの解放を体験したと考えられます。彼らは、エルサレムへの帰還の時点から、過去を振り返って捕囚の事実を眺めているのです。彼らにとって捕囚の出来事は歴史の一コマでした。人々がエルサレムにいなかった捕囚の間は、再び実りをもたらすまでの「安息」の年と捉えていたのです。

第一朗読

祭司長たちのすべても民と共に諸国の民のあらゆる忌むべき行いに倣って罪に罪を重ね、主が聖別されたエルサレムの神殿を汚した。(歴下 36 章 14 節)

わたしたちキリスト信者は、神さまの呼びかけに応えるよう召されています。しかし、残念ながら罪に罪を重ねているのが現実です。その結果、神さまとの関わりが薄れたり、途切れそうになります。神さまから主イエス・キリストを通じて聖別されたという自分自身の尊厳、素晴らしさを見失っていきます。

こうして主がエレミヤの口を通して告げられた言葉が実現し、この地はついに安息を取り戻した。その荒廃の全期間を通じて地は安息を得、七十年の年月が満ちた。(歴下 36 章 21 節)

捕囚の地に連れて行かれた間、約束の地であるイスラエルは安息し、荒廃し、実を結びません。罪を犯すわたしは、罪の虜になってしまい、心の深いところにある主の神殿から離れ去っています。心は荒廃し、実りはありません。もう一度、心に神殿を建て、神の呼びかけに

こた
応えていかなければならないのです。

第二朗読

しかし、^{あわ}憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——（エフェ 2 章 4～5 節）

わたしは罪深い者なのに、神さまは、先にわたしを愛してくださった。ここにすべてのことの出発点があります。

罪によって死んで、横たわっていたわたしを立ち上がらせるのは神さまからの恵みです。復活された主キリストとともに立ち上がっていくのです。

福音朗読

そして、モーセが荒れ野で蛇を^{へび}上げたように、人の子も上げられねばならない。（ヨハ 3 章 14 節）

イエスさまはニコデモに説明します。かつて人々が荒れ野で蛇に苦しめられている時、^{せいどう}青銅の蛇を^{はたざお}旗竿の先に^{かか}掲げて上げ、それを^{あお}仰ぎ見た人が^{いや}癒されていったように（民 21 章 5～9 節）、自分もまた人々が生きると十字架に「上げられねばならない」と。イエスさまが十字架に上げられたのは、神の子として愛されたイエスさまの愛の^{おうとう}応答でした。

神は、その^{ひと}ひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。ひとり子を信じる者が一人も^{ほろ}滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハ 3 章 16 節）

神の子として愛されたイエスさまは、愛してくださった父である神の気持ちがよくわかります。愛してくださる神のこころとは、イエスさまを信じる人が^{ほろ}滅びないで永遠のいのちを得ることなのです。

今日は 9 時半のミサの後に運営協議会があります。皆さん、参加しましょう。